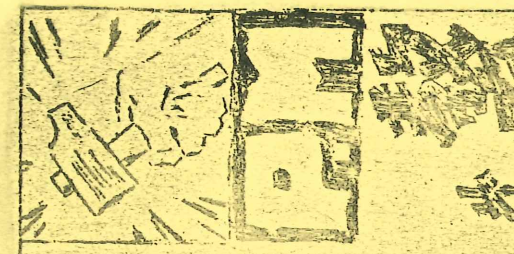

綴方通信

第二号

一九三三年五月二十日発行

綴方の指導と組織の上に！

四月研究会の報告と批判

四月研究会（四月流会）は四月二十日（木）午後六時から、神田一ツ橋の一ツ橋倶楽部で開かれた。

一、新しい綴方教室について

新しい綴方教室は、今までの綴方教室とは、全く違ったものになるだろう。

今までの綴方教室は、ただ、子供の作文を集めて、それを、ならべたてるだけであった。

新しい綴方教室は、子供の作文を集めるばかりでなく、それを、どう指導したらよいかということを、教師に教えるものでなければならない。

二、綴方の指導について

綴方の指導は、子供の生活を、ありのままに、書かせることが、大切である。

子供の生活を、ありのままに、書かせるためには、教師が、子供の生活を、よく、知らなければならない。

子供の生活を、よく、知るためには、教師が、子供と、一緒に、遊んだり、勉強したりしなければならない。

三、綴方の組織について

綴方の組織は、今までのように、ただ、集まるだけでは、いけない。

綴方の組織は、もっと、積極的に、活動しなければならない。

綴方の組織は、もっと、具体的に、活動しなければならない。

四、綴方の批評について

綴方の批評は、今までのように、ただ、よいとか、悪いとかいうだけでは、いけない。

綴方の批評は、もっと、具体的に、どこが、よいか、どこが、悪いか、ということを、はっきりと、指摘しなければならない。

五、綴方の研究について

綴方の研究は、今までのように、ただ、個人的に、研究するだけでは、いけない。

綴方の研究は、もっと、組織的に、研究しなければならない。

綴方の研究は、もっと、具体的に、研究しなければならない。

六、綴方の実践について

綴方の実践は、今までのように、ただ、個人的に、実践するだけでは、いけない。

綴方の実践は、もっと、組織的に、実践しなければならない。

綴方の実践は、もっと、具体的に、実践しなければならない。

七、綴方の理論について

綴方の理論は、今までのように、ただ、個人的に、考えるだけでは、いけない。

綴方の理論は、もっと、組織的に、考えなければならない。

綴方の理論は、もっと、具体的に、考えなければならない。

八、綴方の教師について

綴方の教師は、今までのように、ただ、教えるだけでは、いけない。

綴方の教師は、もっと、子供と、一緒に、学ばなければならない。

綴方の教師は、もっと、子供と、一緒に、遊ばなければならない。

九、綴方の子供について

綴方の子供は、今までのように、ただ、書かされるだけでは、いけない。

綴方の子供は、もっと、自分から、書きたいと、思うように、ならなければならない。

綴方の子供は、もっと、自分から、書きたいと、思うように、ならなければならない。

十、綴方の雑誌について

綴方の雑誌は、今までのように、ただ、作文を、ならべたてるだけでは、いけない。

綴方の雑誌は、もっと、組織的に、活動しなければならない。

綴方の雑誌は、もっと、具体的に、活動しなければならない。

十一、綴方の会について

綴方の会は、今までのように、ただ、集まるだけでは、いけない。

綴方の会は、もっと、組織的に、活動しなければならない。

綴方の会は、もっと、具体的に、活動しなければならない。

十二、綴方の全国組織について

綴方の全国組織は、今までのように、ただ、名前だけでは、いけない。

綴方の全国組織は、もっと、組織的に、活動しなければならない。

綴方の全国組織は、もっと、具体的に、活動しなければならない。

十三、綴方の国際組織について

綴方の国際組織は、今までのように、ただ、名前だけでは、いけない。

綴方の国際組織は、もっと、組織的に、活動しなければならない。

綴方の国際組織は、もっと、具体的に、活動しなければならない。

十四、綴方の将来について

綴方の将来は、今までのように、ただ、漠然と、考えるだけでは、いけない。

綴方の将来は、もっと、具体的に、考えなければならない。

綴方の将来は、もっと、具体的に、考えなければならない。

十五、綴方の結論について

綴方の結論は、今までのように、ただ、結論だけでは、いけない。

綴方の結論は、もっと、具体的に、結論しなければならない。

綴方の結論は、もっと、具体的に、結論しなければならない。

十六、綴方の終りに

綴方の終りは、今までのように、ただ、終るだけでは、いけない。

綴方の終りは、もっと、具体的に、終らなければならない。

綴方の終りは、もっと、具体的に、終らなければならない。

十七、綴方の最後に

綴方の最後は、今までのように、ただ、最後だけでは、いけない。

綴方の最後は、もっと、具体的に、最後しなければならない。

綴方の最後は、もっと、具体的に、最後しなければならない。

十八、綴方の全部について

綴方の全部は、今までのように、ただ、全部だけでは、いけない。

綴方の全部は、もっと、具体的に、全部しなければならない。

綴方の全部は、もっと、具体的に、全部しなければならない。

十九、綴方の一部について

綴方の一部は、今までのように、ただ、一部だけでは、いけない。

綴方の一部は、もっと、具体的に、一部しなければならない。

綴方の一部は、もっと、具体的に、一部しなければならない。

二十、綴方の全体について

綴方の全体は、今までのように、ただ、全体だけでは、いけない。

綴方の全体は、もっと、具体的に、全体しなければならない。

綴方の全体は、もっと、具体的に、全体しなければならない。

二十一、綴方の部分について

綴方の部分は、今までのように、ただ、部分だけでは、いけない。

綴方の部分は、もっと、具体的に、部分しなければならない。

綴方の部分は、もっと、具体的に、部分しなければならない。

二十二、綴方の中心について

綴方の中心は、今までのように、ただ、中心だけでは、いけない。

綴方の中心は、もっと、具体的に、中心しなければならない。

綴方の中心は、もっと、具体的に、中心しなければならない。

二十三、綴方の周辺について

綴方の周辺は、今までのように、ただ、周辺だけでは、いけない。

綴方の周辺は、もっと、具体的に、周辺しなければならない。

綴方の周辺は、もっと、具体的に、周辺しなければならない。

二十四、綴方の核心について

綴方の核心は、今までのように、ただ、核心だけでは、いけない。

綴方の核心は、もっと、具体的に、核心しなければならない。

綴方の核心は、もっと、具体的に、核心しなければならない。

二十五、綴方の表面について

綴方の表面は、今までのように、ただ、表面だけでは、いけない。

綴方の表面は、もっと、具体的に、表面しなければならない。

綴方の表面は、もっと、具体的に、表面しなければならない。

二十六、綴方の裏面について

綴方の裏面は、今までのように、ただ、裏面だけでは、いけない。

綴方の裏面は、もっと、具体的に、裏面しなければならない。

綴方の裏面は、もっと、具体的に、裏面しなければならない。

二十七、綴方の内容について

綴方の内容は、今までのように、ただ、内容だけでは、いけない。

綴方の内容は、もっと、具体的に、内容しなければならない。

綴方の内容は、もっと、具体的に、内容しなければならない。

二十八、綴方の形式について

綴方の形式は、今までのように、ただ、形式だけでは、いけない。

綴方の形式は、もっと、具体的に、形式しなければならない。

綴方の形式は、もっと、具体的に、形式しなければならない。

二十九、綴方の題材について

綴方の題材は、今までのように、ただ、題材だけでは、いけない。

綴方の題材は、もっと、具体的に、題材しなければならない。

綴方の題材は、もっと、具体的に、題材しなければならない。

三十、綴方の主題について

綴方の主題は、今までのように、ただ、主題だけでは、いけない。

綴方の主題は、もっと、具体的に、主題しなければならない。

綴方の主題は、もっと、具体的に、主題しなければならない。

三十一、綴方の構成について

綴方の構成は、今までのように、ただ、構成だけでは、いけない。

綴方の構成は、もっと、具体的に、構成しなければならない。

綴方の構成は、もっと、具体的に、構成しなければならない。

三十二、綴方の文体について

綴方の文体は、今までのように、ただ、文体だけでは、いけない。

綴方の文体は、もっと、具体的に、文体しなければならない。

綴方の文体は、もっと、具体的に、文体しなければならない。

三十三、綴方の表現について

綴方の表現は、今までのように、ただ、表現だけでは、いけない。

綴方の表現は、もっと、具体的に、表現しなければならない。

綴方の表現は、もっと、具体的に、表現しなければならない。

三十四、綴方の描写について

綴方の描写は、今までのように、ただ、描写だけでは、いけない。

綴方の描写は、もっと、具体的に、描写しなければならない。

綴方の描写は、もっと、具体的に、描写しなければならない。

三十五、綴方の叙述について

綴方の叙述は、今までのように、ただ、叙述だけでは、いけない。

綴方の叙述は、もっと、具体的に、叙述しなければならない。

綴方の叙述は、もっと、具体的に、叙述しなければならない。

三十六、綴方の会話について

綴方の会話は、今までのように、ただ、会話だけでは、いけない。

綴方の会話は、もっと、具体的に、会話しなければならない。

綴方の会話は、もっと、具体的に、会話しなければならない。

三十七、綴方の地の文について

綴方の地の文は、今までのように、ただ、地の文だけでは、いけない。

綴方の地の文は、もっと、具体的に、地の文しなければならない。

綴方の地の文は、もっと、具体的に、地の文しなければならない。

三十八、綴方の題名について

綴方の題名は、今までのように、ただ、題名だけでは、いけない。

綴方の題名は、もっと、具体的に、題名しなければならない。

綴方の題名は、もっと、具体的に、題名しなければならない。

三十九、綴方の署名について

綴方の署名は、今までのように、ただ、署名だけでは、いけない。

綴方の署名は、もっと、具体的に、署名しなければならない。

綴方の署名は、もっと、具体的に、署名しなければならない。

四十、綴方の日付について

綴方の日付は、今までのように、ただ、日付だけでは、いけない。

綴方の日付は、もっと、具体的に、日付しなければならない。

綴方の日付は、もっと、具体的に、日付しなければならない。

四十一、綴方の場所について

綴方の場所は、今までのように、ただ、場所だけでは、いけない。

綴方の場所は、もっと、具体的に、場所しなければならない。

綴方の場所は、もっと、具体的に、場所しなければならない。

四十二、綴方の人物について

綴方の人物は、今までのように、ただ、人物だけでは、いけない。

綴方の人物は、もっと、具体的に、人物しなければならない。

綴方の人物は、もっと、具体的に、人物しなければならない。

四十三、綴方の事件について

綴方の事件は、今までのように、ただ、事件だけでは、いけない。

綴方の事件は、もっと、具体的に、事件しなければならない。

綴方の事件は、もっと、具体的に、事件しなければならない。

四十四、綴方の時間について

綴方の時間は、今までのように、ただ、時間だけでは、いけない。

綴方の時間は、もっと、具体的に、時間しなければならない。

綴方の時間は、もっと、具体的に、時間しなければならない。

四十五、綴方の空間について

綴方の空間は、今までのように、ただ、空間だけでは、いけない。

綴方の空間は、もっと、具体的に、空間しなければならない。

綴方の空間は、もっと、具体的に、空間しなければならない。

四十六、綴方の因果について

綴方の因果は、今までのように、ただ、因果だけでは、いけない。

綴方の因果は、もっと、具体的に、因果しなければならない。

綴方の因果は、もっと、具体的に、因果しなければならない。

四十七、綴方の目的について

綴方の目的は、今までのように、ただ、目的だけでは、いけない。

綴方の目的は、もっと、具体的に、目的しなければならない。

綴方の目的は、もっと、具体的に、目的しなければならない。

四十八、綴方の手段について

綴方の手段は、今までのように、ただ、手段だけでは、いけない。

綴方の手段は、もっと、具体的に、手段しなければならない。

綴方の手段は、もっと、具体的に、手段しなければならない。

四十九、綴方の過程について

綴方の過程は、今までのように、ただ、過程だけでは、いけない。

綴方の過程は、もっと、具体的に、過程しなければならない。

綴方の過程は、もっと、具体的に、過程しなければならない。

五十、綴方の結果について

綴方の結果は、今までのように、ただ、結果だけでは、いけない。

綴方の結果は、もっと、具体的に、結果しなければならない。

綴方の結果は、もっと、具体的に、結果しなければならない。